

2010年8月30日

阿部新県政に望む

報告書

(2010年8月20日～22日調査)

調査の設計	1
調査の概要	2



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

調査の目的

村井仁知事の任期満了にともなう長野県知事選挙は8月8日に投開票、新人の阿部守一・元副知事が腰原愛正・前副知事、松本猛・前安曇野ちひろ美術館長の二氏を破り初当選した。阿部氏の得票数は362,903票で、腰原氏との差は5021票。戦後の県知事選では最も小差の大接戦だった。

投票率は52.70%で過去最低を記録、有効投票数に占める阿部氏の得票率は39.85%、長野県全有権者に対する得票率は20.79%だった。

厳しい経済情勢が続く中で、県民はなぜ阿部氏を県政のリーダーとして選んだのか、阿部新県政に何を期待しているのか、県政の優先課題は何か。9月1日の阿部知事就任を前に、県民世論を探った。

調査の設計

調査対象	県内に住む20歳以上の男女800人
抽出方法	県内を東北中南の4地区に分け、さらに20代～70歳以上の6つの年代層・性に分割し“県下の有権者の縮図”となるように人数を比例配分して、各市・各郡の対象者数を設定。
調査方法	個別電話聞き取り・RDD(ランダム・デジット・ダイヤリング)法で実施。コンピューターで無作為に発生させてかける電話調査法で、電話帳に番号を載せていない人も調査できる。無作為に発生させた番号のうち、設定した年代・性の人を選び、目標の800人に達するまで抽出して聞き取りを行った。
調査地点	19市9町6村
調査時期	2010年8月20日～22日
有効回答	808人(男性 381人 女性427人)

<注> 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。文中のパーセント数字は原則として小数点以下を四捨五入した。政党支持のうち第6位(社民党)以降のデータは、有効回答数が少ないため参考値扱いとする。

II 調査の概要

9月1日に就任する阿部守一・新知事に、県民は高い期待感を示した。知事選で大接戦の結果にもかかわらず、今回の結果に「満足」は全体で69%、公約の事業仕分けも「積極的に取り組むべきだ」が79%に達した。

支持率は「支持する」「どちらかといえば支持する」を合わせ82.6%に上った。田中康夫元知事が、2002年9月の出直し知事選直後に得た84.7%にはわずかに及ばないものの、村井仁現知事が2006年当選直後の72.2%を10%以上も上回る。

半面「今後どのくらい知事をつとめてほしいか」には1期か2期が7割以上で、現段階では長期県政までは望んでいない。

次期県政に力を入れてほしい政策として「産業振興と雇用」「高齢者福祉や医療」が拮抗、緊急課題があらためて浮き彫りになった。具体的な県短大4年制化や県営浅川ダム問題は、現県政の姿勢をただす方向となっている。

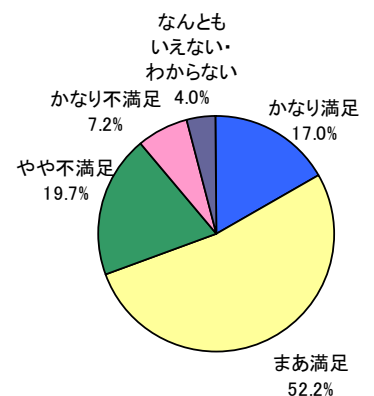
知事選の評価

男性より女性の満足度高く

今回の知事選の結果について全体で「満足」が69%、「不満足」が27%。ただ「かなり満足」は17%にとどまり、過半数は「まあ満足」だった。性別では女性の「満足」は全体で75%に上り、男性を13%上回る。年代別では高齢層の満足度が高い。地域的には大きな差はない。

職業別では役員・管理職・自由業だけが「不満足」50%で、「満足」をわずかに上回った。

前回田中氏に投票した人は83%が「満足」しており、村井氏へ投票した人でも58%は「満足」と答えている。

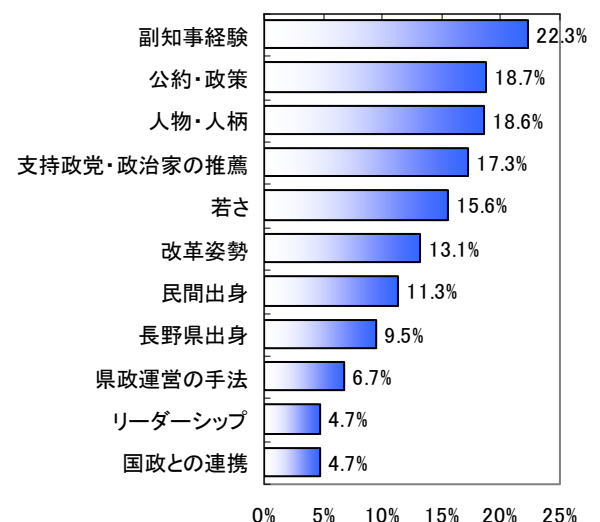


候補者に期待したのは「副知事経験」がトップ

投票にあたって期待した点を2つ挙げてもらった。「副知事経験」が22%でトップ、次いで「公約・政策」「人物・人柄」「支持する政党・政治家の推薦」「若さ」の順だった。候補者2氏が副知事経験者だったことも、押し上げた一因と思われる。

選挙戦では応援などに政党色が出たが「政党・政治家の推薦」は4番目、続く「若さ」の16%が目につく。特に20代は「若さ」をトップに挙げている。

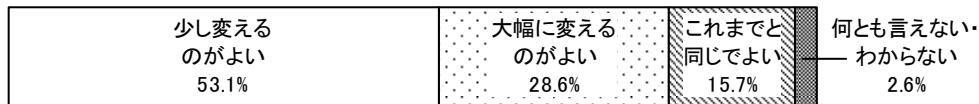
今回「リーダーシップ」「国政との連携」はあまり期待されなかった。



県政の課題、運営、手法

村井県政の事業・組織は「少し変えるのがよい」

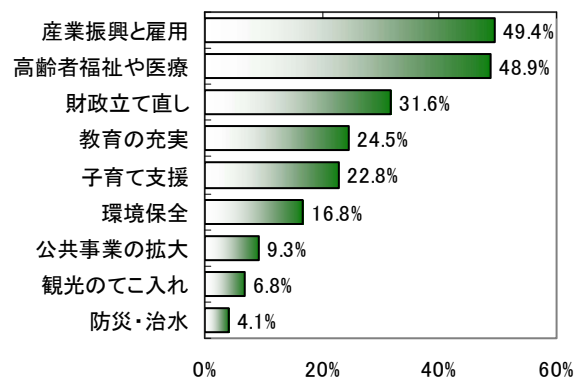
村井県政の事業・組織の運営について、「少し変えるのがよい」が半数を超える 53%。「大幅に変えるのがよい」は 29%で、8割はある程度変えていくことを望んでいる。「これまでと同じでよい」は 16%、性別、年代、職業、地域でも大きな差は認められない。



力を入れてほしい政策に「産業振興と雇用」「高齢者福祉や医療」

阿部県政に力を入れてほしい政策は「産業振興と雇用」「高齢者福祉や医療」が、ほぼ同列に並んだ。少し離れて「財政立て直し」「教育の充実」「子育て支援」と続く。これは告示前調査と同様の順番で、「高齢者福祉や医療」を求める比率が 13%アップした。

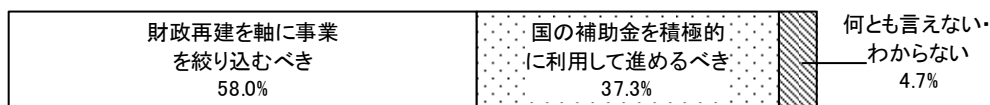
男性と 20～60 代は特に「産業振興と雇用」への要望が強い。一方女性と 70 歳以上は「高齢者福祉や医療」の要望がトップにくる。



公共事業は「財政再建を軸に絞り込む」58%

公共事業の進め方について「財政再建を軸に絞り込む」が「国の補助金を積極的に利用して進める」を 20%近く上回る。これは 4 年前の村井県政誕生時の調査とほぼ同じ結果で、財政再建優先の県民意識に大きな変化がなかったといえよう。

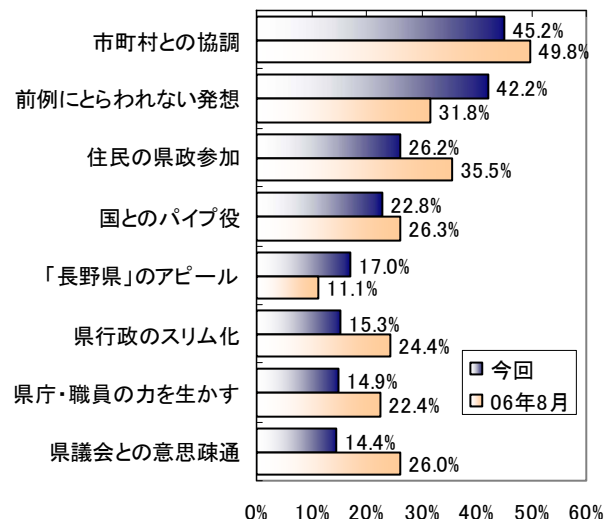
70 歳以上、農林漁業層は積極派が高めだが「絞り込み」と拮抗している。



「市町村との協調」を望む運営

阿部知事の県政運営への希望は「市町村との協調」が 1 位の 45%。僅差で「前例にとらわれない発想」、あとは少し差があり「住民の県政参加」「国とのパイプ役」「『長野県』のアピール」となる。

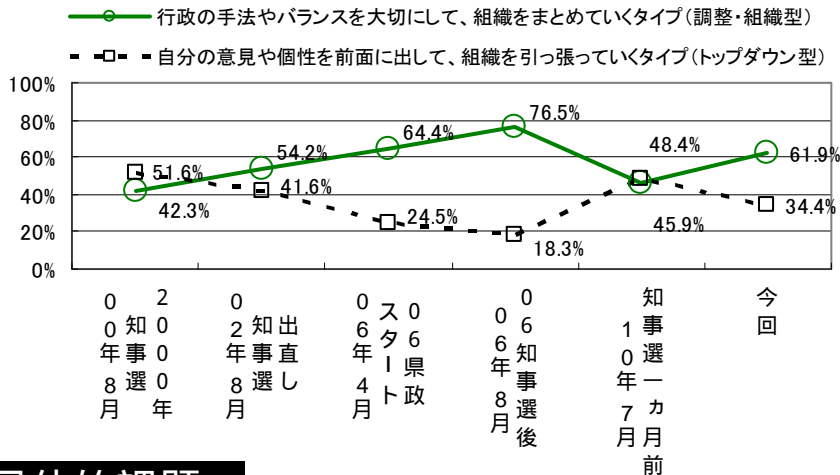
2 位に入った「前例にとらわれない発想」は 4 年前の調査との比較で大きく伸び「住民の県政参加」を逆転した。40 代はトップに挙げ、過半数が望んでいる。



知事のリーダーシップ、「調整・組織型」62%

期待する知事のリーダーシップについて、告示前調査では「行政の手法やバランスを大切にして組織をまとめていくタイプ」(調整・組織型)と「自分の意見や個性を前面に出して、組織を引っ張っていくタイプ」(トップダウン型)が拮抗していた。今回は「調整・組織型」が大きく伸びて、田中県政以降の流れに戻ったようだ。

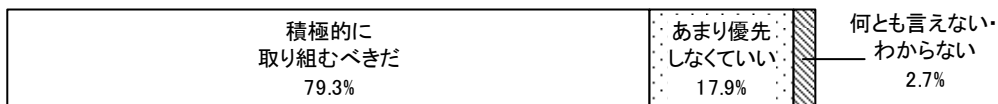
20代と現業系・サービス系従事者は「トップダウン型」期待が、ほかの層よりは高めの4割。



県政の具体的課題

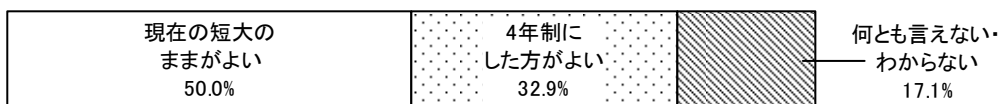
事業仕分け「積極的に」79%

阿部氏の公約「事業仕分け」について「積極的に取り組むべきだ」が79%に上った。とりわけ性別では女性、年代別では20代、60代、70歳以上、職業別では商工・自営業が強い期待を寄せている。地域でも中信、南信の期待感が北信、東信より高い。



県立短大「現在の短大のまま」50%

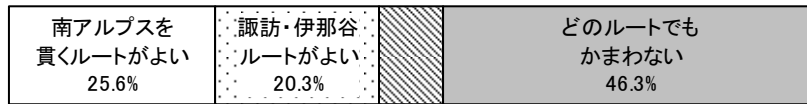
県短大の4年制構想について「現在の短大のまま」がちょうど半数、4年制を望むのは33%だった。全世代、職業、地域を通じて「現在の短大のまま」が優勢で、4年制支持が4割を超えたのは長野市のみにとどまっている。



リニア「南アルプス貫くルート」26%

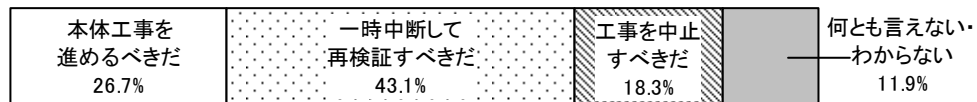
JR東海のリニアルートは「南アルプスを貫くルート」が26%で、「諏訪・伊那谷ルート」に5%の差をつけた。ただ「どのルートでもかまわない」が一番多く46%。南信は両ルートがほぼ同数で世論は真っ二つの様相だ。

木曾谷を通る
ルートがよい
7.8%



県営浅川ダム工事 「一時中断して再検証を」43%

知事選の争点にもなった浅川ダム工事について、「一時中断して再検証すべきだ」が43%、「本体工事を進めるべきだ」27%、「工事を中止すべきだ」18%と分かれた。30代、40代は「再検証」希望が5割を超えている。「本体工事を進めるべきだ」は建設地の長野市でも31%にとどまっている。



阿部新知事の支持率

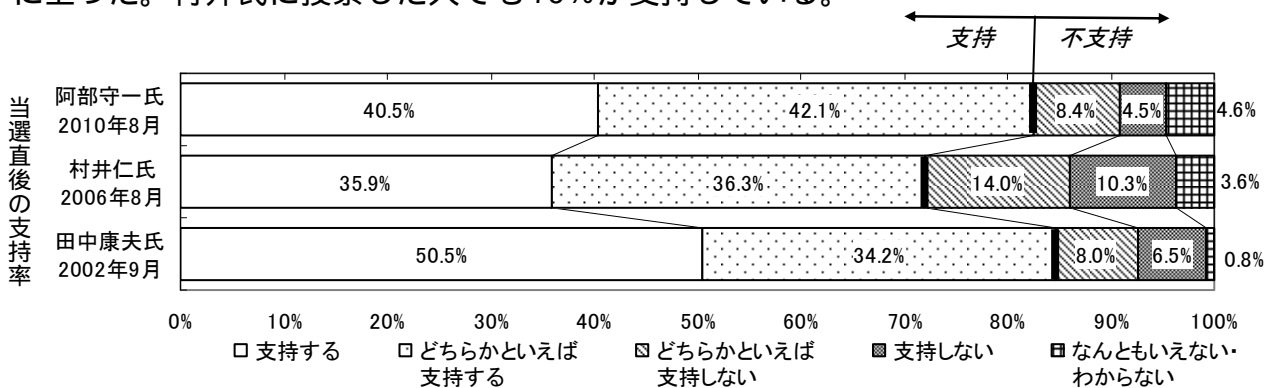
「支持する」が全体で83%

阿部次期知事の支持率は「支持する」41%、「どちらかといえば支持する」42%で全体では83%に。田中元知事が02年9月、出直し知事選後に得た支持率に匹敵する高さだ。

特に女性、高齢者層の支持が高い。女性は積極的に「支持する」だけで48%、70歳以上は57%、職業では農林漁業が51%。

地域でも大きな差はないが、強いていえば北信が低めで中信が高め。

前回の投票行動との関係では、田中氏に投票した人は阿部氏を「支持する」が全体で93%に上った。村井氏に投票した人でも75%が支持している。



つとめてほしい任期は「1期」と「2期」が大半

今後、阿部次期知事につとめてほしい任期は「1期」35%、「2期」37%で、「3期以上」は14%だった。「1期」の比率が高いのは30代、50代、「2期」は60代が高い。市郡を比べると「1期」が多い長野市と、「2期」が多い松本市・郡部が対照的だ。

阿部次期知事を強く「支持する」層でも「2期」が一番多く44%だった。

